

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 旭川中央ケアサポート 安心コールセンター

(第2回) 介護・医療連携推進会議議事録

日時 平成27年10月22日 (木) 13時30分 ~ 14時10分

場所 旭川中央ケアサポート かりのすまい東光 1階研修室

出席者

事業所	福祉介護事業部長	柏葉 美香
	福祉介護事業課長	遠藤 康敏
	サービス提供責任者	山田 彩
	看護師	山根 裕子
利用者家族 (入居者)		霜村 幸雄 様
医療関係者	旭川医科大学 在宅看護学 助教	板東 利枝 様
地域住民代表	民生委員	野村 様 欠席
市職員	旭川市介護高齢課 計画推進係	小松 義尊 様 病欠

議題

事業所より報告

1. 利用状況の現状
 - (1) 利用者の内訳
 - (2) 男女比

- (3) 要介護度の内訳
- (4) 利用者の相談経路
- (5) 利用者の主な疾患

2. 事例紹介

利用者 OM 様

- (1) 既往歴 生活歴 利用経緯 現状について報告
- (2) 週間プラン
- (3) 今後の見通し
- (4) サービス開始後の結果

霜村 幸雄様より（要支援1）

かりのすまいに入居し、静子様（要介護4）の介護については必要な時に相談し、その都度話し合い決めてきた。とても良いと思っている。今は自分の健康の不安もあるし、今後ここでの生活はどの程度のレベルまで受け入れてもらえるのか不安である

（柏葉部長）

病院とは違うので、看護師が24時間常駐している態勢ではない。医療が加われば相談する必要がある。

たとえば

- ① 吸引が必要になった時
- ② 胃ろうになり、管理が必要になった時
- ③ 認知症となり、他の入居者への迷惑行為がある場合など

坂東 利枝様より

介護と看護の連携について、具体的にどうなのか？

(柏葉部長)

- ・ 地域包括ケアとしての情報の共有は進んできている。
- ・ 毎月1回の医療職によるモニタリングを行う必要がある。
- ・ 連携先である訪問看護の定額報酬の低さ、上限なしでいつでも対応は難しいのが現状。
- ・ 地域差は考えられ、都市型の密集している地域での利用に効果大きい。
- ・ 1日複数回、短時間来てほしいと利用されるが、モーニングケア・ナイトケアなど来てほしい時間が重なってしまうのが今後課題となる



今後も、具体的に定期巡回の利用者がどのようなサービスを受けているのか。

わかりやすく事例を作成し検討していく。